ルの向上，コミュニケーションのルートなどに変容がみられたように思う。

実施過程や実施後の変容については，調査などによってみることはできなかったが，教職員の活動状況や感想，反省などを参考に分析してみた。

∘　多くの情報や意見が集中的に出され，意思決定がスムーズに行われた。

∘　参加者の意志の疎通がはかられ理解も深まり，全体的な実行力へ好影響をあたえた。

∘　モラールの高まりがみられ，参加者の視野の広がりを感じた。

∘　チーム編成による自己関与度が高まり，従来の部や係の活動を活発にする面があった。

(5) 研究のまとめ

校務分掌は，学校の根幹をなす組織ともいわれ，毎年安易に改正できるものではない。しかし，生徒の実態をふまえ，教育目標を具現化していく中で，年度によって指導の重点が変わっていく。それに対応するために，年度当初の人的配置に意を用いることはいうまでもないが，プロジェクトチームの活用については，さらに考えていきたいと思う。

校務運営の機能化をはかるためには，常設・特設委員会の性格や機能を明確にし，分掌間の連携の欠陥部分をうめるには，プロジェクトチームを組織し，校務運営処理表に位置づけていけば，校務運営は，さらに円滑化がはかられるものと思う。

∘　チームリーダーのリーダーシップが発揮され，チームのかなめとしての意識が高まれば，校務分掌が動的なものになっていくだろう。

∘　チームメンバーの経営参加の意識化をはかることができたように思う。

∘　常設委員会やプロジェクトチームとの関連が明確になり，それぞれの性格，役割の上での関連がすっきりし，校務運営の円滑化がはかられたと思う。

∘　管理職者として校務遂行状況のチェックができた。プロジェクト推進者としてのリーダーのチェック機能としても処理表が活用された。

大規模校では，校務分掌の細分化などによって意志の疎通を欠くことがあるが，校務運営処理表やプロジェクトチームの編成・活用をすることは，務運営の機能化をはかる上での有効な手段であったといえよう。

5. 今後の問題点

(1) 校務運営処理表の作成

① 校務運営処理表の作成手順を検討する。

② チェック機能としての活用を検討する。

(2) プロジェクトチームの組織

① プロジェクトチームの位置づけと性格づけを

② 弾力的な人選および人数を検討する。

③ チームリーダーを育成する。

(3) プロジェクトチームの活動

① 活動時間の確保に努める。

② 活動内容の方向づけの工夫をする。

＜参考文献＞

∘学校経営に関する研究（昭和54・56年度）
福島県教育センター

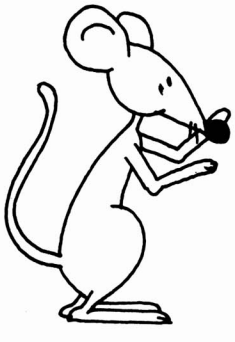
∘学校の組織と運営　牧昌見　教育開発研究所

∘現代学校教育全集　校務分掌
吉本　二郎，永岡　順，　編集　ぎょうせい

∘学校運営研究　No. 252　明治図書

∘教職研修　教育開発研究所

∘学校教育の手引き　新版
福島県教育庁義務教育課編

∘全国公立学校教頭会研究大会集録（昭和55・56年度）
全国公立学校教頭会

∘小中学校長・教頭のチェックポイント
吉本　二郎，熱海　則夫　第一法規